

自信をもった行動のできる子

石橋紀美子

1 対象児のプロフィール

生徒名 K・N (女) 昭和49年12月5日生 (中2)

鳥取市立S小学校特殊学級より本校中学部へ入学

言語障害 精神発達遅滞

SQ38 (S-M社会生活能力) 4才10ヶ月 語い年齢 5才6ヶ月 (PVT)

(1) 身体的状態

- ・視力が弱くメガネを使用。矯正視力 (0.3)
- ・やややせ型であるが、病気にもかかりにくく病欠はほとんどない。
- ・筋緊張が強く、全体的に動きにぎこちなさが見られる。
- ・筋力が弱いため、脊柱側弯の傾向がある。

(2) 家庭環境

- ・両親と中3の姉、本人の4人家族である。両親共に教育熱心。
- ・K子に対して家族全員が暖かく接している。

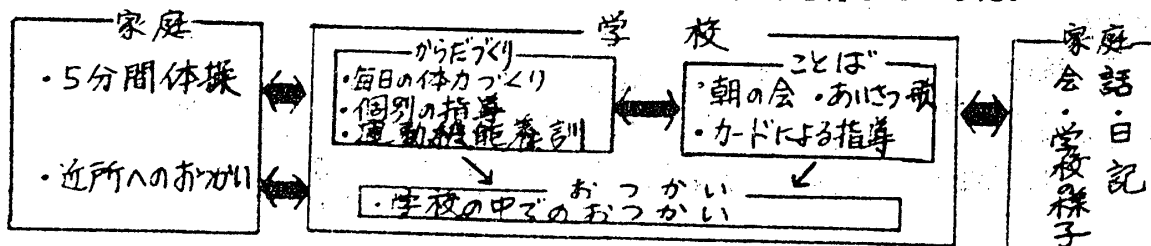
(3) 問題となる実態 (63.4-5の実態)

- ・機嫌のいい時には素直でにこやかであるが、少しでも気に入らないことや思い通りにならないことがあると、所かまわず座り込み大声で泣き出す。
- ・尋ねられたり、発表したりする場に出会うと一步後退してしゃべらなくなる。
- ・かなりの構音障害がありききとりにくい。
- ・ささいなことですくて、いじけたような態度を示す。
- ・ねこ背で常に前傾姿勢をとっている。軽度の運動障害があり立っていてもぐらついたり転んだりしやすい。

2 指導の仮設と取り組みの構想

K子が些細なことで座り込んだり発表の場になると口を閉ざしてしまうという態度は、発音不明瞭で言葉が他の人に通じにくいという言語障害におけるコンプレックスからくるものと考えられる。K子のこのような態度を少しでも改めていくには、直接言語指導と取り組むことよりも、筋緊張を和らげたり脊柱側弯の矯正を行うことによって、からだに自信を持たせることが肝要だと考えた。そして、その自信が言語面で発揮され、人前で話したり大きな声で話をしたりという態度が育っていくと考えたのである。

そこで、家族に指導する場面を次のように設けて指導を行っていった。




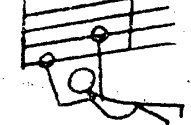

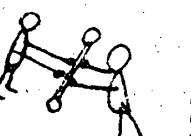
3 指導の実践

(1) からだづくり

昨年は運動機能抽出訓練での指導のみであったが、今年度は更に毎日の「体力づくり」の中での指導、そして学校と家庭での個別指導を加えていった。

・個別指導について

K子の体の問題点であるねこ背と軽度の脊柱側弯の矯正を目的に、毎日の体力づくりの終了後また、休憩時を利用して5分間体操を実施している。ねらい、変容ぶりは次のようである。

	内 容	ねらい	変 容	
			5月	1月
1	 仰臥位で足に移動 向かって上体を移動 体を動かす 左右に押し左を。	背骨の矯正	・恐る恐る1m位 ・恐る恐る1m位 ・恐る恐る1m位	・スピードがたどまも以上 ・スピードがたどまも以上 ・スピードがたどまも以上
2	 伏せかたを せかたを てらうか てらうか てらうか	背筋力の上 背肩	・わすれかかの間 ・わすれかかの間 ・わすれかかの間	・助木の4段目 ・助木の4段目 ・助木の4段目
3	 助木に教秒 助木に教秒 助木に教秒	腕の強化 背筋力の上 背肩	・3～5秒で ・3～5秒で ・3～5秒で	・10秒以上ぶら ・10秒以上ぶら ・10秒以上ぶら
4	 棒の押し合い 棒の押し合い 棒の押し合い	腕の強化 背筋力の上 背筋力の上	・腕の力のみ ・腕の力のみ ・腕の力のみ	・腰を安定さ ・腰を安定さ ・腰を安定さ

はじめはたいへん嫌がっていたK子であるが、最近は少しずつ進んで取り組もうとする姿が見られた。また、家庭でもチェック表を持ってお風呂あがりの5分間体操を実施している。保護者もこの訓練にはたいへん協力的で、かなり定着して効果を見せつつある。

(2) ことばの指導

K子に対してのことばの指導では、繰り返しの練習がより効果的ではないかと考えた。そこで毎日の朝の会での会話カードを用いてのことばの指導を中心に言語・朝の会

指導を行ってきた。

毎日、同じパターンの繰り返しなので、K子も自信を持って意欲的に取り組んでいる。特に朝のあいさつと歌の場面で大きな声が出せるようになってきた。

活動内容	方法・留意点
・本の視写	・現在、進んで取り組んでいるので、文字に誤りがあってもあまり修正しない。

・あいさつ	・みんなに、大きな声で。
・日付の発表 (係活動)	・「今日は〇月〇日です。日直は〇さんです。お天気は〇です。」と発表。
・歌と合奏 粗大運動 手指の運動 ピアノカ奏	・大きな声で歌ったり、元気よく体を動かしたりする。
・日記の発表	・吹く練習。 ・大きな声で読む。

また、日記の発表はK子が楽しみにしている場の一つである。今年度になって文字の誤りはあるにしても、自分で文を構成できるようになり、書く楽しみも増えたようである。文と文がつながらず文意は理解できないが、自分が書いたものに人が反応してくれるのが楽しくなってきたようである。

・カード法による指導

K子の発音の不明瞭を少しでも改善できればと思い、カードを用いた指導を試みた。机上での言葉の学習をたいへんいやがっていたが、言葉の学習というよりカルタ遊び、具体物を使用する遊びなどから入っていくと、10月より1対1の指導が可能になってきた。

指導の方法、K子の発音については次に示すとおりである。

ねらい：ことばを繰り返し聞かす、読ますことで脳に刺激を与えて記憶させる。また、文字カードを見せることにより文字に慣れ、集中力を養う。

5分間

- 1 カードを読む。(10枚)
- 2 カードと実物のマッチング。
- 3 「ことば」とカードのマッチング。

準備品

白いマニラボール紙で約30cm×10cmのカードを作成。赤マジックで単語を記入。

留意点：単語・文は身近なものを記入する。

まちがった発音をしても無理な矯正はしない。

発音 * ○…さっと読む X…まねて読む * 単語は抜粋である

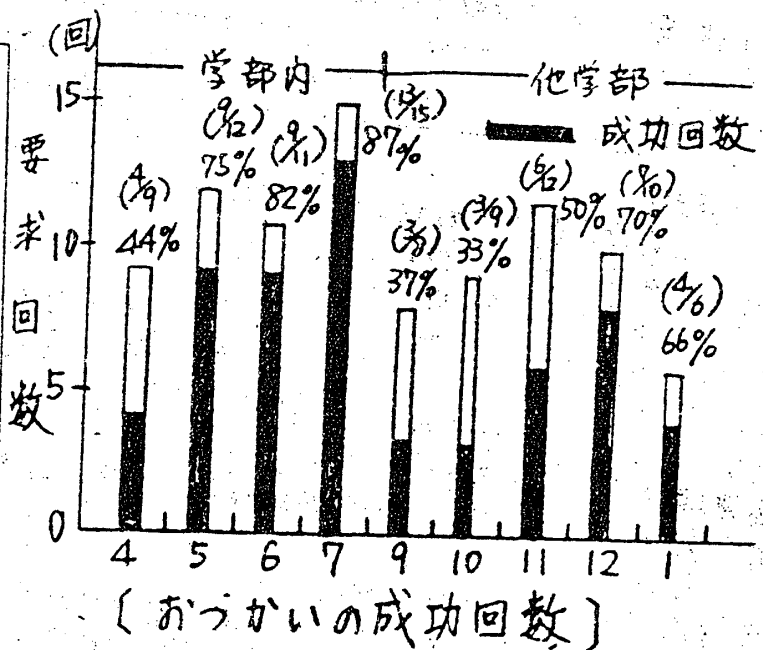
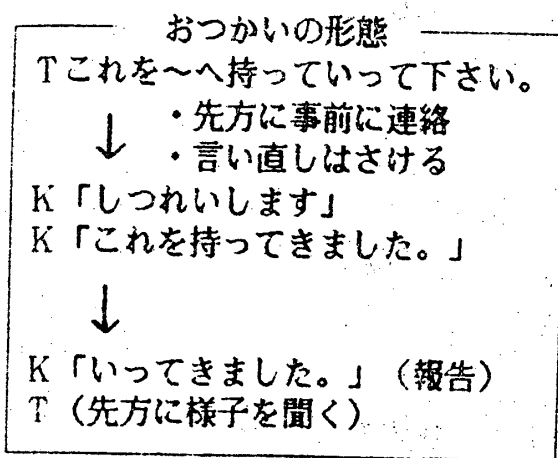
単語	10月		12月		単語	10月		12月	
	○	×	○	×		○	×	○	×
あたま	○	ハタマ	○	ハタマ	かばん	×	ハバン	×	ハバン
くち	×	ウチ	○	クチ	つくえ	×	ツ〇エ	○	ツクエ
かた	×	ハタ	×	ハタ	おとうさん	○	ホトーサン	○	ホトウサン
いぬ	○	イヌ	○	イヌ	おかあさん	○	ホカーサン	○	オカーサン
うさぎ	○	ウサギ	○	ウサギ	みかん	○	ミハン	○	ミカン

(3) おつかい指導

からだづくりとことばの指導で身についた力を試す場として、日常生活の中におつかいの指導を行ってきた。おつかいはその場で成功・失敗がわかり、k子の自信をつけていく指導にはたいへんよいと考える。

4月頃は不安で行きたくなく、教室を出るまでかなりの時間がかかったが、回を重ねるにつれて自信もつき、スムーズに行くことができるようになった。しかし、2学期に入り行き先を中学部から他学部にしたところ、一時的に失敗が多くなった。おつかいをきちんと終えて教室に入ってきた時のk子の顔、報告の声はいつも自信にあふれている。

また、冬休みは一人で近くのお店に買い物に行くことができるようになった。



4 考察と今後の課題

K子の言語面の遅れを少しでも軽減させることが、自信を持っていきいきと行動できるK子をつかっていく。そのためには直接、言語指導するよりもまず運動機能を高める指導を行うことから全体的な発達を考える必要があるという立場に立って取り組んできた。

わずか、数ヶ月の指導ではあるが、体力づくり・抽出養訓そして日常生活の場でのK子の姿に、いきいきとした積極的な態度をわずかながら見る事ができた。このことが朝の会や学習場面で、少しずつではあるが大きな声を出したり、話をしようとする心の解放感を生じてきていると考えている。

今後、体力づくりの内容や家庭での体操の内容、カード学習の指導内容・方法など、改善すべき問題は多くある。また、k子の体について医学的な面からの指導も受けていかなければならないと考える。